

## 東北における強害帰化雑草の分布状況

-1993, 94年のアンケート調査から-

的 場 和 弘・橋 雅 明・田 村 良 文・伊 藤 一 幸・伏 見 昭 秀

(東北農業試験場)

Distribution of Naturalized Weeds in Tohoku Area, Japan

-Result of questionnaires in 1993 and 1994-

Kazuhiro MATOBA, Masaaki TACHIBANA, Yoshifumi TAMURA, Kazuyuki ITO and Akihide FUSHIMI

(Tohoku National Agricultural Experiment Station)

### 1 はじめに

草地、飼料畑の雑草というと、エゾノギシギシやシロザ、ヒエ類といったものが強害雑草として一般的であった。しかし近年、これら以外にイチビやキハマスゲ(シヨクヨウガヤツリ)、アザミ類といった、以前からあったが、あまり問題とされていなかった帰化種を中心とした雑草が、全国的に大きな問題を起こしている<sup>1)</sup>。そこで、これらの新しい強害雑草の東北地域における分布及び被害状況を把握するために、アンケートによる調査を1993, 94年に実施し、検討を行ったので報告する。

### 2 調査方法

調査は、東北6県の全農業改良普及センターを対象に、アンケート用紙を配布する形式で行った。調査の対象草種は帰化種に限定せず、帰化種を中心として現在問題となっている雑草種(ただし、エゾノギシギシは除く)とした。調査項目は、雑草名、発生地域、発生場所(地目、草地、飼料畑に限定せず)、作付作物、発生頻度、被害、侵入時期、動向等<sup>2)</sup>とした。また、雑草の同定用として写真と、説明資料も添付した。

### 3 調査結果及び考察

東北6県には農業改良普及センターが88あり(1993年、支所、駐在所を除く)、そのうち回答が得られたのは57普及センター(65%)であった。報告のあった草種は18科45の種又は類に及んだ<sup>1)</sup>。

以下に発生件数が多く、また被害も出ている草種について、簡単な特徴と分布を図示する。取り上げた草種は、発生件数も多く、また被害も出ている草種である。地図上の細線は市町村境、中線は普及センターの管轄区、太線は県境を示す。●の大きさは、被害の程度を示すが、その普及センター管内で報告のあった最も大きな被害状況を示し、管内全体がその被害状況であるということではない。また、黒く塗りつぶされているのは、回答の得られなかった所である。

#### 図1 イチビ (*Abutilon theophrasti* Medic.)

アオイ科の1年生。主に飼料畑に発生。除草剤の内、土壌処理剤の効果が薄く、また実生の発生が秋まで続く。東北全体に発生し、また被害報告も多い。

図2 ヒルガオ類(ヒルガオ *Calystegia japonica* Choisy, コヒルガオ *C.hederacea* Wall., セイヨウヒルガオ *Convolvulus arvensis* L., など)

ヒルガオ科の多年生つる植物。地下茎での繁殖力が非常に強い。東北全体の飼料畑に発生し、被害も大きい。

図3 アメリカオニアザミ (*Cirsium vulgare* Tenore) キク科の越年生。多数の鋭い棘を持つため、放牧草地で牛が食べ残し、問題となる。山形県、宮城県での報告は少ないが、他県では全体に発生が見られる。類似種としてセイヨウトゲアザミ (*C. arvense* Scop. 多年生)がある。

図4 ヒユ類(アオビユ(ホナガイヌビユ) *Amaranthus viridis* L., アオゲイトウ *A.retroflexus* L., ホソアオゲイトウ *A.patulus* Bert., ハリビユ *A.spinosus* L., など)

ヒユ科の1年生、水田以外の耕地に発生。南東北での発生被害が目立つが、青森県でも発生。

図5 ワルナスビ (*Solanum carolinense* L.)

ナス科の多年生、葉及び茎に鋭い棘を持つ。水田以外の耕地に発生。福島県には少ないが、他県では全体に発生。

図6 アレチウリ (*Sicyos angulatus* L.)

ウリ科の1年生つる植物、飼料畑や法面、河川敷等での発生が見られ、トウモロコシ畑を覆い尽くすことがある。青森県以外の全県で発生。

以上の他に、発生及び被害報告の多かった草種として、オナモミ類、ハルザキヤマガラシ、カミツレモドキ、アカザ類、チョウセンアサガオ類等があげられ、さらにこれらの分布も、先の草種と同様、特にある地域に集中して分布する傾向はなく、東北全体に散在している。

我が国には現在、家畜用飼料として多種多量のものが、世界中から持ち込まれている。これらのすべてが十分に精選され、雑草やその種子の混入が全くないと言うことはあり得ず、事実かなりの量の雑草種子が飼料に混入して入ってきている<sup>3)</sup>。また、輸入後もすべてが十分な加熱や粉碎

雑草の分布と  
被害状況

被害状況  
 甚大～大: ●  
 中～小: ○  
 無: △  
 不明: ▲  
 黒塗り: 未回答



図 1 イチビ



図 2 ヒルガオ類



図 3 アメリカオニアザミ



図 4 ヒユ類



図 5 ワルナスビ



図 6 アレチウリ

処理を受けているわけではなく、海外から来た雑草の種子が生きたまま農家まで届いているのである。これらのことから、今回取り上げた雑草の侵入及び拡大のパターンは、ある1ヶ所から広がったものではなく、発生地点のそれぞれに別個に侵入し、そこに定着、繁殖拡大したものと考えられる。

また、通常草地飼料畑に多い雑草が、野菜や果樹といった一般の畑地でも発生しているという報告が見られたが、一般の畑地の侵入が堆肥経路以外考えられない例もあり、帰化雑草の問題が、畜産農家だけの問題ではなくなっていることにも注意しなければならない。

4 ま と め

先にも述べたとおり、我が国には飼料と共に世界中の多種多様な雑草の種子が季節を問わず持ち込まれ、生きたまま農家まで届いている。これらの雑草のうち、侵入先の気候、条件に適応できたものが定着する。さらに定着したものうち、現在の一般的な管理方法では防除できない雑草が、逆に圃場において選択的に残され大発生につながることも考えられる。現状では種子の侵入を完全に防止することは難しいため、常に新しい雑草の発生に注意し、初期の段階で防除することが重要であろう。

引用文献

- 1) 的場和弘, 橋 雅明, 伊藤一幸, 田村良文, 伏見昭秀. 1995. 東北における帰化種を中心とした雑草の発生状況. 日草誌 41 (別): 81-82.
- 2) ———, 田村良文, 橋 雅明, 伊藤一幸. 1994. 東北におけるイチビの分布と被害状況. 東北農業研究 47: 219-220.
- 3) 清水矩宏, 西田智子, 魚住 順, 原島徳一. 1994. 草地・耕地への外来雑草の侵入経路の特定と定着・拡散機構. 日草誌 40 (別): 331-332.
- 4) ———, 魚住 順, 西田智子, 原島徳一, 的場和弘, 田村良文, 橋 雅明, 伊藤一幸, 萩野耕司, 佐藤節郎, 小林良次, 館野宏司. 1994. 最近増加している草地・飼料畑の外来雑草の発生実態. 雑草研究 39 (別): 228-229.